第９回　郷土の文化財探訪バスツアー

豊後高田の“知られざる”磨崖仏巡り

（上）福真磨崖仏／県史跡（大日如来坐像）

（左）鍋山磨崖仏／国史跡（不動明王立像）

平成３０年３月１７日（土）
豊後高田市教育委員会

（１）本日の行程

０８：４５　豊後高田市役所正面玄関前　集合、受付
０９：００　出発
０９：２０　鍋山磨崖仏着。

・鍋山磨崖仏【国史跡】：鎌倉時代／不動明王・矜羯羅童子･制多迦童子

０９：４０　鍋山磨崖仏発
０９：４５　大門坊磨崖仏着

・大門坊磨崖仏【市史跡】：室町時代／毘沙門天・薬師如来・大日如来・不動明王など
・元宮磨崖仏【国史跡】：室町時代／毘沙門天・不動明王・持国天など

１０：１０　元宮磨崖仏発
１０：４０　天念寺着

・川中不動【国名勝・県史跡】：室町時代／不動明王・矜羯羅童子･制多迦童子
・磨崖役行者像【国名勝・県史跡】：戦国時代／役行者像

１１：００　天念寺発
１１：３０　六所神社着

・六所神社磨崖像【県史跡・市有形】：伝仁聞菩薩像・比丘比丘尼像など

１１：５０　六所神社発
１２：００　昼食：休憩
１２：５０　出発
１３：１５　中之坊磨崖仏着

・中之坊磨崖仏【市史跡】：室町末～江戸時代／大日如来・地蔵菩薩・如意輪観音など

１３：３５　中之坊磨崖仏発
１３：４０　福真磨崖仏着

・福真磨崖仏【県史跡】：鎌倉末～南北朝／五智如来・六観音・六地蔵・不動明王など
・福真磨崖仏石造覆屋【県史跡】：江戸時代末　安藤国恒・鴛海東八作

１４：００　福真磨崖仏発
１４：０５　応暦寺着

・堂ノ迫磨崖仏【県史跡】：室町時代／六観音・六地蔵・十王・比丘・比丘尼など

１４：４０　応暦寺発
１５：００　市役所高田庁舎着

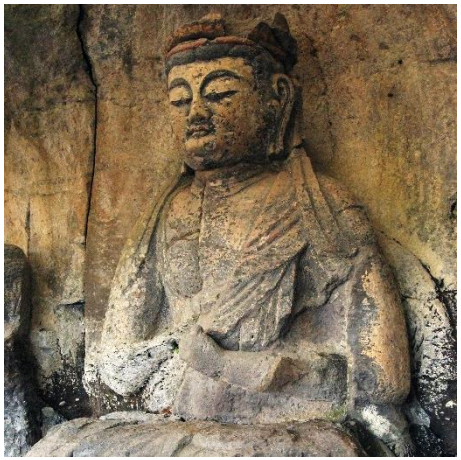
磨崖仏とは？

自然の岩壁に直接彫られた仏像を「磨崖仏(まがいぶつ)」と呼びます。自然の岩山に仏像を刻む行為は、インドや中国などアジア地域の仏教圏で広く行われており、日本でも平安時代(今から約１２００年前)から各地で盛んに造られるようになりました。

熊野磨崖仏(国重文･国史跡)

■磨崖仏の宝庫～おおいた～

大分県内には**全国の６～７割が集中**していると言われるほど磨崖仏がたくさん造られました。現在確認されているもので**約９０ヶ所、約４００体もの磨崖仏**が所在します。規模が大きく優れた造りぶりのものは**平安時代後期～鎌倉時代にかけてのものが多く**、この時期に大分に天台宗系の仏教文化が浸透し、荘園の支配関係を通じて中央との結びつきが強かったことが造立の背景として考えられます。



臼杵石仏(国宝･国特別史跡)

■おおいたの磨崖仏～北と南のちがい～

また、県内の磨崖仏は国東半島を中心とした県北と、大分市以南の県中･南部では、**仏像の規模や彫り方に違い**が見られます。県北地域(例：熊野磨崖仏)ではレリーフ状に薄く彫るのに対して、県中･南部に分布する阿蘇火山灰の堆積による溶結凝灰岩は大変軟らかく、彫刻するのに適しているため、磨崖仏(例：臼杵石仏)は丸彫りで深く立体的に彫り込まれています。

荘園の水源を護る 鍋山磨崖仏

田染上野地区と大田村の境の鍋山地区の丘陵部の岩壁には**鎌倉時代に彫られた不動三尊（不動明王･矜羯羅童子･制多迦童子）**があります。

熊野磨崖仏と比べると控えめな大きさですが、像高 230cm は**真木大堂の木造不動明王立像とほぼ同じサイズ**です。

元々は稲積不動尊と呼ばれ、稲積山慈恩寺の奥ノ院であったとされています。

鍋山磨崖仏（国史跡）　木造不動明王立像(国重文)
不動三尊の比較

■上野条里と鍋山磨崖仏

鍋山磨崖仏の位置は、古代の田染地区の開発と関係が深いとされています。

磨崖仏のある場所から桂川へ下ると**鍋山井堰**という大型の井堰があり、**上野条里を広く灌漑**していたことが分かっています。

鍋山磨崖仏と上野条里の位置

磨崖仏や井堰に利用しやすい岩盤が付近に多かったこともありますが、**磨崖仏の多くは水源地に造られ、水に対する信仰も帯びています。**磨崖仏の位置と人々の歴史を重ねあわせてみると、磨崖仏への人々の祈りの姿を知ることができます。

素朴な味わいの仏様 大門坊磨崖仏

「大門坊」は、かつてこの地に栄えた幻の大寺「伝乗寺」(現・真木大堂)の末坊の一つであったとされています。

崖面の北側から南側にかけて５体の尊像が薄肉彫りされています。向かって右から毘沙門天立像・薬師如来坐像・大日如来坐像・尊名不詳の仏像・不動明王が一列に並んでいます。

やや見づらい仏様もありますが、大らかでやや稚拙な造りぶりから、**室町時代も１５世紀後半～１６世紀にかけて造立**されたと考えられています。毘沙門天によって踏みつけられた**邪鬼の表現もユーモラスで微笑ましい**です。

大門坊磨崖仏・薬師如来坐像(市史跡)

田染荘の発展・拡大を見守る 元宮磨崖仏

田染・元宮八幡社の境内北側の岩壁に、向かって右から毘沙門天・矜羯羅童子・不動明王・天部(持国天か)・地蔵菩薩の各立像が薄肉彫りされています。**不動明王の脇侍として右に矜羯羅童子が合唱して仰ぎ見る様は愛らしい**です。左側には制多迦童子が刻まれていたとされますが、現在はその痕跡は見られません。

不動三尊に四天王の内の二尊が脇を固めて、地蔵が添えられる**尊像配置は、八幡関係の諸神の本地仏を表したもの**と考えられています。**室町時代よりも古く南北朝時代の造立**ともみられます。

元宮磨崖仏

不動明王と矜羯羅童子(国史跡)

おなじみ 川中不動 に新発見！？

川中不動は、天念寺の前を流れる長岩屋川の中にたたずむ磨崖仏で、市内でも有数の観光名所となっています。長岩屋川の氾濫を鎮める為に彫られたと伝えられる**不動三尊**で、**室町～戦国時代に造立**されたとされます。

平成 22 年に川中不動でクリーニング作業を実施しましたが、その時に川中不動が彫られる大岩に**２ヶ所の孔と土器片が発見**されました。

土器片は**「陶製経筒」**と呼ばれるもので、平安時代の僧侶達が遠い未来へ経典を伝えるためのものでした。

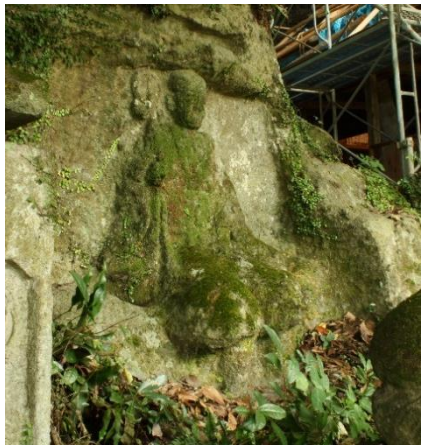
川中不動上部の孔

出土した土器類（陶製経筒）

行者達の憧れ 磨崖役行者像

天念寺講堂のすぐ横にも磨崖の像があります。この像は修験道の始祖とされる役行者（えんのぎょうじゃ）／役小角（えんのおづぬ）（634 - 701）を彫ったものです。**岩坐に腰掛け、錫杖・高下駄の姿**で表現されることが多くあります。

戦国時代～江戸前期にかけて、国東半島には宇佐や日出から山伏（修験者）が流入してきました。本像も戦国時代頃の作とされ、**山伏達が造ったものであると考えられています。**



磨崖役行者像

僧侶の姿であらわれた「神様」 六所神社磨崖像

夷・六所神社の門を入ると、右手の岩壁に３体の像が刻まれています。中央の尊像は高さ８０㎝ほどあります。**室町時代**の造顕とされています。

姿形から僧形八幡神像（＝仁聞菩薩）として祀られています（ただし、左右に男女の像もあり、地蔵菩薩等を彫ったとも考えられます）。これらの尊像が収まる石造覆屋は、近年の後補です。

六所神社磨崖像(市有形)

伝・仁聞菩薩磨崖像

また、一段上った旧六所権現とされる岩屋の入口崖面には六郷満山の開基・**仁聞菩薩と伝わる磨崖像を見ることも出来ます。**どちらも僧形の磨崖像であり、２つの像を見比べてみるのも面白いかもしれません。

柔和な如意輪観音像に心癒される 中之坊磨崖仏

旧上真玉小学校から東へ数十ｍ移動した裏山に三区の龕室(がんしつ)に分かれた磨崖仏がひっそりとあります。大日如来・阿弥陀如来の丸彫像、やや高肉彫の地蔵菩薩立像の他に、注目すべきは、**磨崖仏としては珍しい「如意輪観音半跏像」(弥勒菩薩思惟像とも)が彫られています。**周辺に広がる種字板碑や磨崖板碑、散在する数多くの五輪塔群などの石造物も見所。**室町時代末～江戸時代頃の作**と思われます。

中之坊磨崖仏・如意輪観音像(市史跡)

仏像で“宇宙の真理”を表現 福真磨崖仏

鎌倉～南北朝時代頃(今から約６６０年前)に真玉川南岸の小高い岩場の崖面に彫られた仏像群。大日如来坐像（＝宇宙の中心に居るとされる仏）を中心に、**全部で１９体もの仏像が彫刻**されています。仏像群の右側には「**胎蔵界曼荼羅(たいぞうかい・まんだら)**」という仏教の教えを図で表したものも彫られています。

福真磨崖仏(県史跡)

石造覆屋修理工事に伴う養生解体後の様子

■他に類例のない珍しい「石造覆屋」

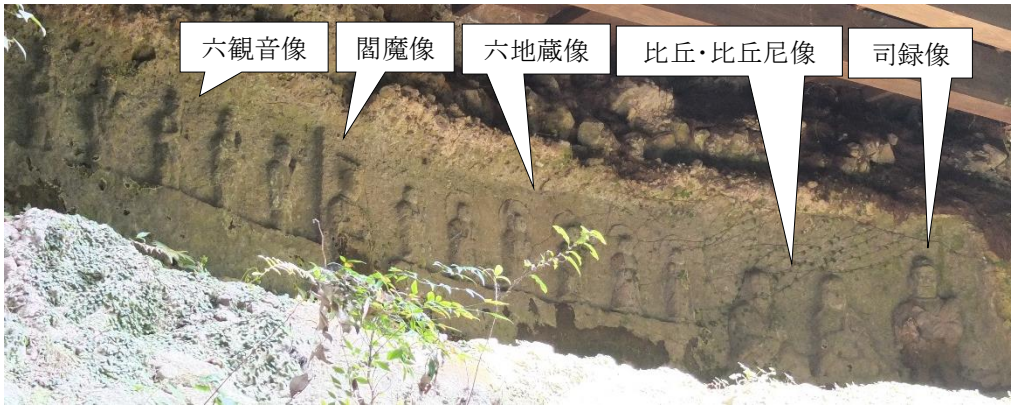
磨崖仏を雨風から守るために屋根をかけたものを「覆屋(おおいや)」といいます。福真磨崖仏を保護する「石造覆屋」は、１８５７年(安政４)に地元の石工で法橋の称号を持つ安藤国恒・鴛海東八によって造られた**大分県内でも類例がほとんど見られない珍しい構造物**です。いつまでも磨崖仏を守り続けたいと願う地域の先人たちの想いが伝わってきます。

保存修理前の福真磨崖仏　石造覆屋

■石造覆屋の作者―安藤国恒　～真玉が生んだ江戸時代後期の名石工～

福真磨崖仏・石造覆屋を造ったのは、真玉・大岩屋出身の石工―安藤源平国恒（１８２２～１８７１）と、その弟子・鴛海東八です。国恒は技能優秀な職人に贈られる「法橋(ほっきょう)」という称号を受けるほど、非凡な才能の持ち主で、当時の真玉地域を代表する石工職人の一人でした。

極楽往生を願った夫婦の祈り　堂ノ迫磨崖仏



応暦寺の境内から奥の院に向かって山道を 250m 程登ったところに堂ノ迫磨崖仏があります。目線より高い位置に造顕されているので、やや見づらいかもしれません。**六観音と六地蔵に閻魔･司録**を組み合わせる尊像配置は、いわゆる**「六道思想」**に基づいたものと思われます。これに夫婦と見られる僧形と女人の坐像(≒**比丘･比丘尼像**)が加わっています。恐らく、この磨崖仏の願主とみられており、**逆修(＝生前供養)**の趣意から造顕されたものと考えられています。

年代的には**室町時代前半**の 15 世紀頃に造られたと思われ、六観音と六地蔵を対比させる構成は、近在する**福真磨崖仏の影響**を受けているとも見られています。なお、磨崖仏が造られた当時の応暦寺は、末寺末坊 25 ヶ所を抱える**六郷山中山分の中核的寺院として存在**したことが知られています。

【用語解説】

■司録(しろく)：死後に亡者を裁く裁判官(十王)の一人。司命(しみょう)と共に閻魔王の判決を記録する書記官とされる。手に筆を持ち、書き留めようとするポーズをとる。

■比丘(びく)：仏教において出家した修行者の男性を比丘、女性の場合は比丘尼という。

■六道思想：衆生がその業にしたがって死後に赴くとされる 6 つの世界。六観音や六地蔵は、観音･地蔵が六道のそれぞれに姿を現して、救いの手を差し伸べると考えられた。

本日ツアーで巡った磨崖仏リスト

鍋山磨崖仏【国史跡】

古くは稲積不動尊と呼ばれた鎌倉時代の磨崖仏。上野条里遺跡や鍋山井堰といった荘園開発の歴史と関係が深いといわれています。

大門坊磨崖仏【市史跡】

伝乗寺（真木大堂）の末坊の 1 つ大門坊に彫られた磨崖仏。よく見ないと分かりませんが、邪鬼を踏みつける毘沙門天の磨崖仏がしっかりと残っています。

元宮磨崖仏【国史跡】

田染地区の鎮守・元宮八幡社の境内に彫られた室町時代の磨崖仏。不動三尊、毘沙門天、持国天など多くの尊像をつくります。

川中不動&磨崖仏役行者像【国名勝&県史跡】

おなじみの川中不動も平成 22 年に新発見がありました。また、すぐ後ろの磨崖役行者は中世末期に展開した山伏の活動と関係が深いものです。

六所神社磨崖像【県史跡&市史跡】

今回のバスツアーでは唯一の磨崖“像”。六所神社でひっそりと祀られる僧形の像は、仁聞菩薩（八幡神）を祀ったものとされています。

中之坊磨崖仏【市史跡】

無動寺の旧境内に位置する「中之坊」に彫られた磨崖仏。全体的に小ぶりのものが多いですが、如意輪観音は磨崖仏の題材としては珍しいです。

福真磨崖仏【県史跡】

平成 27～29 年度の石造覆屋修理を終え、3 年ぶりに公開することができました。四王石屋の参道に彫られた南北朝時代の優れた磨崖仏です。

堂ノ迫磨崖仏【県史跡】

縦長の伽藍配置を持つ応暦寺境内を登ると、奥の院の手前に見えてきます。比丘・比丘尼の像を彫り、六観音や六地蔵を彫って生前供養をしています。